

松戸市学校施設長寿命化・再整備計画（第Ⅰ期） 概要

文部科学省が「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、各地方公共団体においても学校施設を対象とした長寿命化計画を早期に策定することが求められている中で、本計画を策定するものです。

1 目的

学校施設を健全な状態に保ち、安全・安心・快適な学校環境を確保するため、これまでの劣化状況に応じた改修対応（事後保全）を行っていくのではなく、計画的な改修対応（予防保全）への転換を目指し、施設の耐久性を高める長寿命化工事を中心とした手法を採用することで耐用年数を90年程度へ延ばすなど、財政負担の軽減・平準化を図り、さらには先進的な取り組みなども含めた質的な向上及び改善をすることを目的とする。

2 計画期間

計画の更新は10年ごと

今期（第Ⅰ期）については令和4年度から令和10年度の7年間（関連計画との整合）

3 現状把握

- 学校施設296棟の建物のうち、6割の建物が築40年以上経過し老朽化が進行している
- 将来人口推計（年少人口）は、減少傾向であるが、35人学級の導入・特別支援学級の配置が進められている

	基準年	第 1 期					
	令和元年度 (2019年)	令和5年度(2023年)			令和10年度(2028年)		
	人口	人口	増減率	構成比	人口	増減率	構成比
総人口	498,367	503,740	1.1%	100.0%	507,765	1.9%	100.0%
内訳							
年少人口(0~14歳)	58,362	54,982	-5.8%	10.9%	53,755	-7.9%	10.6%
生産年齢人口(15~64歳)	312,842	309,027	-1.2%	61.3%	308,659	-1.3%	60.8%
老年人口(65歳~)	127,163	139,731	9.9%	27.7%	145,351	14.3%	28.6%

4 学校施設の基本方針等

- 長寿命化や建替えなどを組み合わせた整備手法で財政負担の軽減・平準化を検討
- 教育環境や児童生徒数の見通しを踏まえた適正規模・学校機能の再整備等の検討

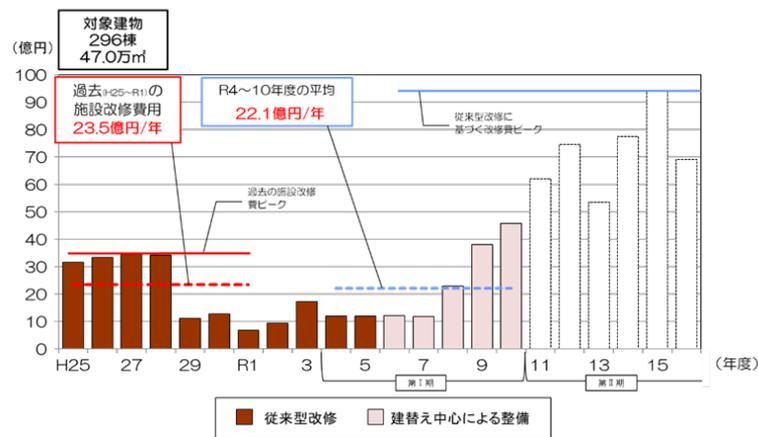
5 長寿命化事業にかかるコスト

■これまでの施設維持管理（従来型）

- 施設を維持する改修（耐用年数を概ね60年程度）
 - 外壁改修、屋上防水など
- 施設の安全性を高める改修
 - 耐震工事、アスベスト対策工事
- 施設の快適性を高める改修
 - 教室冷房化、トイレ洋式化

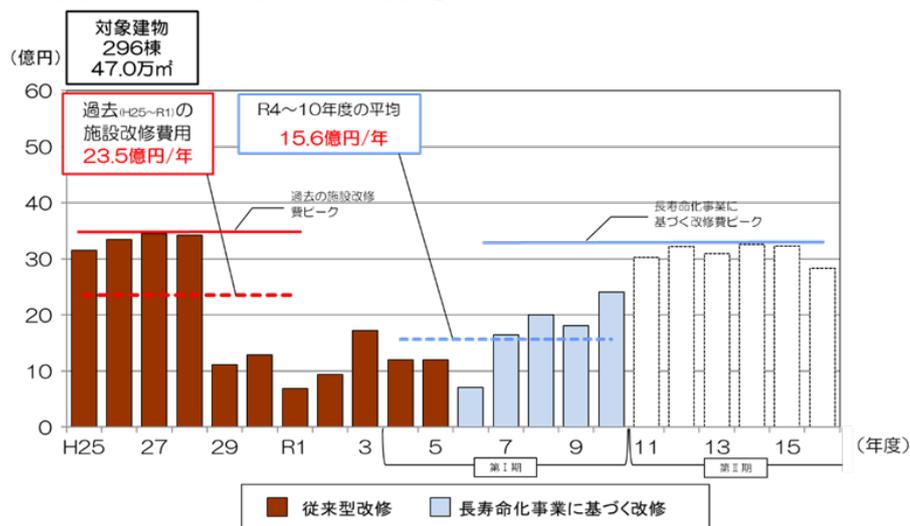
従来型（60年で建替え）

R4～R10年度の年間平均約 22.1 億円



長寿命化型（改修し90年使用）

R4～R10年度の年間平均約 15.6 億円



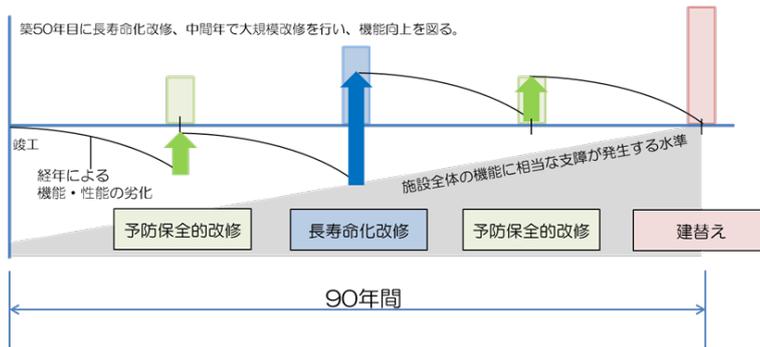
■今後の施設維持（長寿命化）

- 1 施設を維持する改修（耐用年数概ね90年程度）
 - ・耐久性に優れた素材による改修（屋上、外壁の改修など）
 - ・ライフラインの更新（水道、電気、ガス管など）
- 2 施設の安全性を高める改修
 - ・部材の強度を高める補修（コンクリート中性化や鉄筋腐食対策など）
- 3 施設の快適性を高める改修
 - ・トイレ洋式化（ドライ化）・LED化・バリアフリー化・ICT化

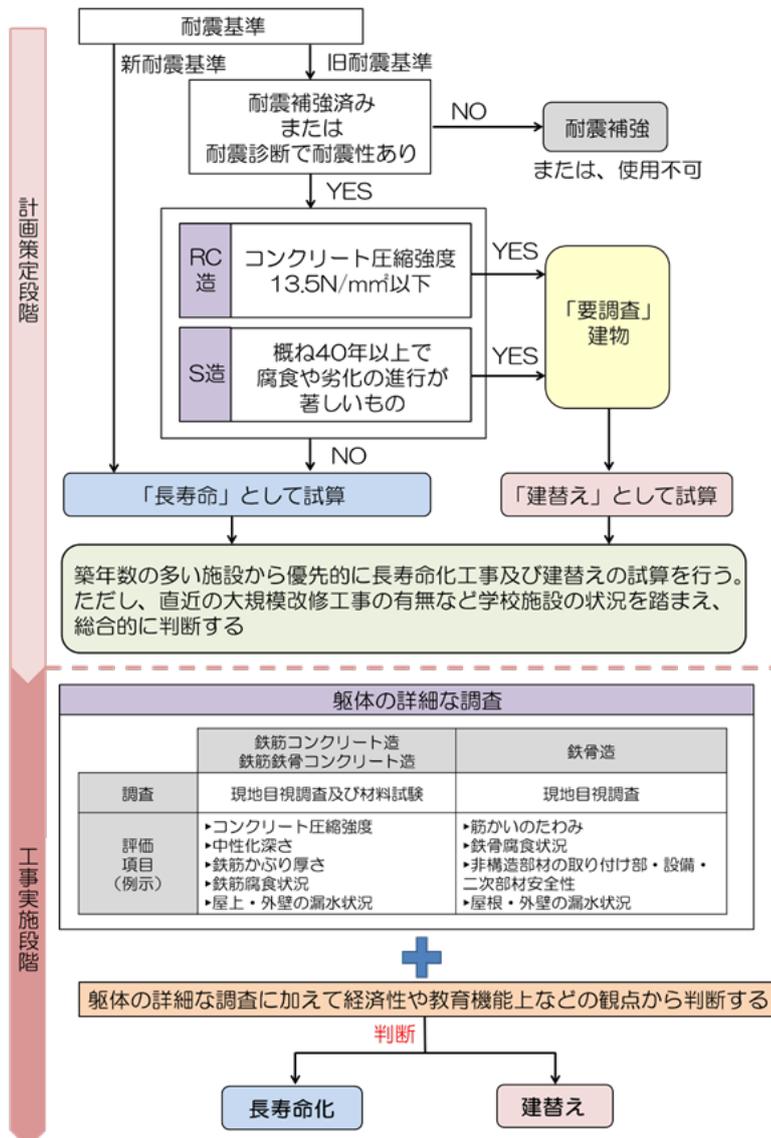
6 整備手法と優先順位付け

・90年程度にわたって建物を使用できるように再整備

長寿命化・再整備（予防保全）

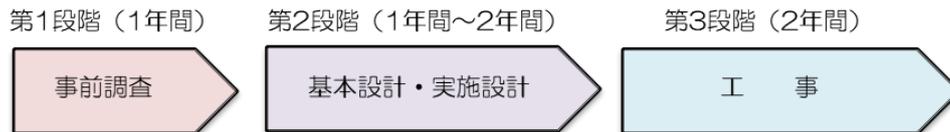


- ・構造躯体の健全性の評価を基に、長寿命化と試算する建物、建替えと試算する建物別に分類
- ・築年数から多く経過した施設から優先的に整備
- ・直近の大規模な保全的工事からの経過年数など学校施設の状況を踏まえたうえで校舎を優先
- ・児童生徒推計や地域の実情に応じて評価
- ・分類ごとに平準化



7 改修までの工程

(1 学校のうち、複数棟、又は、1 棟を再整備した場合)



8 整備対象施設と実施計画

令和 10 年度までに長寿命化事業を実施する施設 (5 年ごとに見直し)

※35 人学級などを踏まえ、今後 10 年程度は現状の施設を維持しながら長寿命化改修を行う

学校名	用途	建物名	延床面積	建築年度
中部小学校	校舎	中央	5,764㎡	S46
北部小学校	校舎	中央・西	2,100㎡	S42・S43
南部小学校	校舎	中央	2,636㎡	S41
馬橋小学校	校舎	東・北	3,750㎡	S40・S44
小金小学校	校舎	北	3,181㎡	S44
上本郷小学校	校舎	北	3,806㎡	S43
小金北小学校	校舎	北・西	5,223㎡	S42・S43
根本内小学校	校舎	南	3,029㎡	S43
栗ヶ沢小学校	校舎	南	2,125㎡	S44
柿ノ木台小学校	校舎	西	2,972㎡	S45
六実小学校	校舎	南	3,000㎡	S45
上本郷第二小学校	校舎	西1	2,597㎡	S43
第五中学校	校舎	北	3,411㎡	S48
栗ヶ沢中学校	校舎	北	2,703㎡	S49
古ヶ崎中学校	校舎	中央	4,740㎡	S49

▶令和 4 年度から令和 10 年度までの事業費は、約 110 億円程度(平均約 15.6 億円/年)

9 今後の再整備の手法

- ▶今後 10 年間程度は長寿命化改修を中心に現状施設の維持を行う
- ▶将来的には、学校の集約化、複合化、転用なども視野に入れ、児童・生徒数の動向や地域の実情に応じた学校施設の規模、配置計画等の検討を行う
- ▶地域に開かれた生涯学習の拠点等、より有効な活用について検討していく